

平成 16 年 1 月 1 日



まねん

KKR 広島記念病院広報誌

第 6 号

発行所 〒730-0802
広島市中区本川町 1-4-3
国家公務員共済組合連合会
広島記念病院
Tel (082) 292-1271

広島記念病院ホームページ URL <http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org>

電子カルテ稼動について

広島記念病院
院長 中井 志郎



21世紀は、「生命科学の時代」です。生命、生きている事の意味を深く考える時代です。

病める人たちに対して、医学、医療は今、「何ができるのか」「何をする事が良いことなのか」が問われ、日本の医療の方向性が示されたところです。その中で医療をIT化することによって、更にむだな部分をより少なくし、より効率で効果的な良質の医療、介護、福祉を実現する事が出来ます。

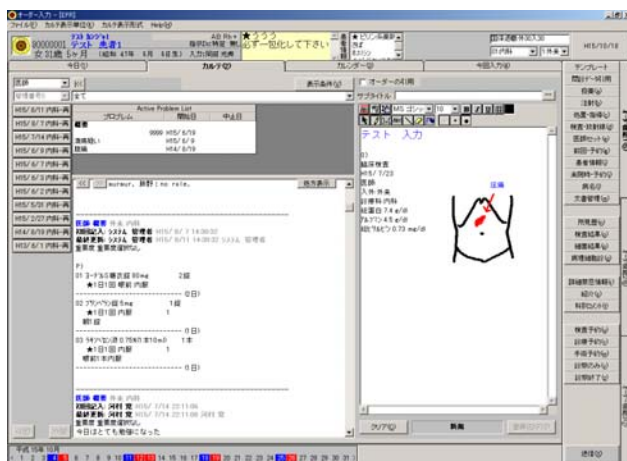
広島記念病院は、急性期の医療を担っておりますが、連携医(病病、病診)、

訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所と共同で治療・ケアをしていかなければなりません。医療のIT化は、患者さんの情報を同一視点で共有でき、疾病別連携がよりスムーズになり、また、小廻りのきいた臨機応変な対応も可能となって参ります。

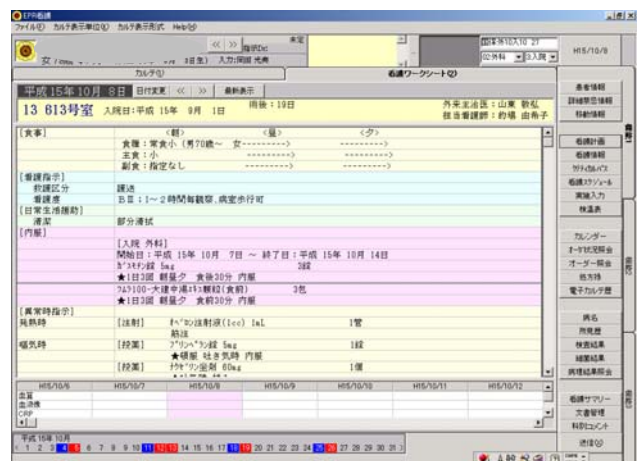
当院は平成15年8月1日に電子カルテを稼動させました。まだまだ未熟ですが、徐々に進化させて行く予定です。2年後には、連携医・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所とのネットワーク化も計画しております。また、連携医の先生方より、紹介患者さんの情報がFAXで送られてきた時点で、検査予約や入院予約等が出来るようなシステムを検討いたしております。しばらくはご迷惑をおかけいたすことと思いますがご容赦ください。

当院はこの機会により一層、地域に密着した医療を推進めて参りたいと存じますので、引き続きご愛顧を賜りますようお願い致します。

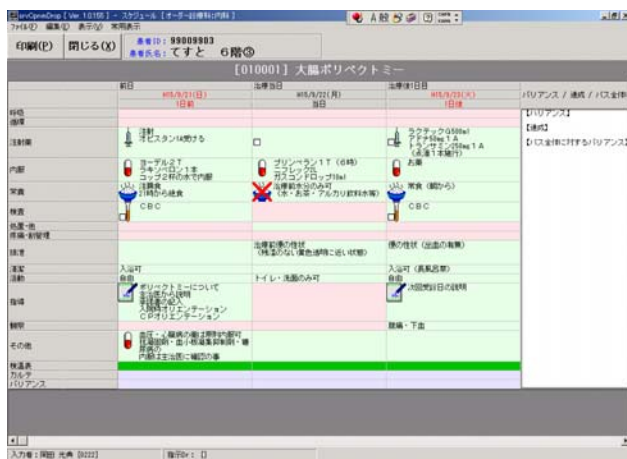
電子カルテシステム 画面集



電子カルテ基本画面



看護ワークシート



クリニカルパス



放射線画像参照画面



内視鏡画像参照画面



病理画像参照画面

マルチスライスCTについて

放射線科医長 西岡康二

平成 15 年 3 月下旬に当院に新しい CT 装置が導入されました。今までの CT 装置は、導入後約 9 年が経過し、画像処理時間が遅く、広範囲に撮像された多数の画像を処理するには随分と時間がかかるようになっていました。このたび導入された CT 装置は GE 社製 LightSpeedPlus β で 4 列マルチスライス CT です(写真 1)。外観は従来の CT とほとんど変わりありませんが、性能はかなり進歩しています。新しい CT 装置は X 線管球が一回転する間に 4 スライス分のデータが一度に得られ、しかも一回転に要する最短時間も 1 秒から 0.5 秒と短縮されています。当然のことながら画像処理のスピードも速く、連続して撮像できる枚数も増えています。従って従来の CT 装置と比較すると撮像時間は短縮し、時間分解能及び体軸方向の分解能の高い画像データが得られるようになりました。また同じ撮像時間(呼吸停止下)であれば、より広い範囲の撮像が可能となり、状態が悪く、十分な呼吸停止が難しい患者さんや小児の体幹部においても臨床上有用な良質の画像が得られるようになっています。また体軸方向の分解能の高い連続した画像データを用いワークステーションにより画像処理をする事により、MRI と同様に冠状断や矢状断の CT 画像(MPR; multiplanar reconstruction 像)が得られるようになりました(図 1 A と B)。

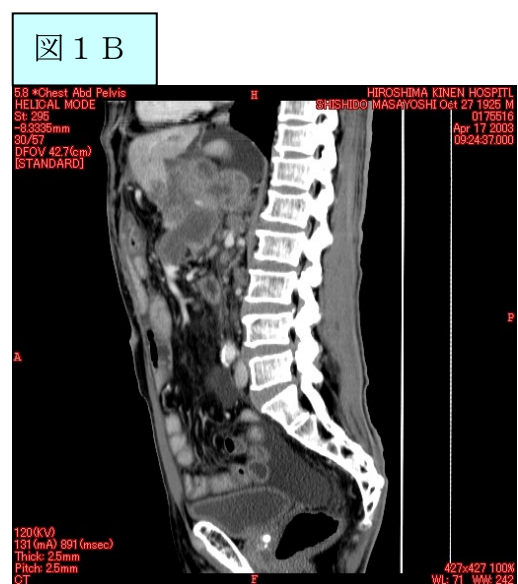
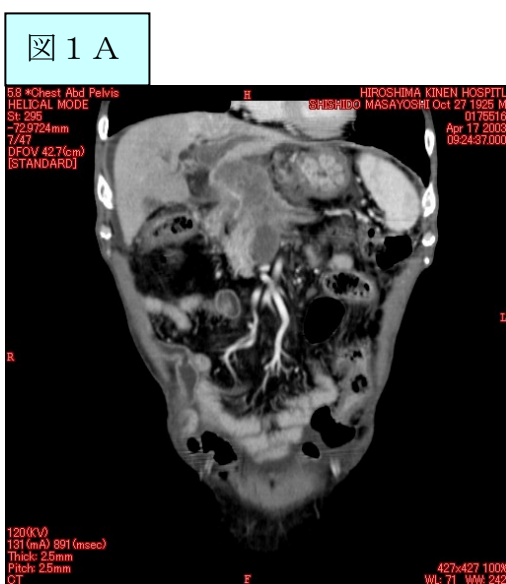


図 1 門脈～上腸間膜静脈の MPR 像 (A・冠状断像と B・矢状断像); 門脈及び上腸間膜静脈内腫瘍塞栓の範囲が分かりやすい。



図 2 腹部大動脈～
骨盤領域動脈の
3D-CT; 正常例

また造影剤投与と撮像のタイミングを合わせて得られた画像データからは、頭蓋内、胸腔内、腹腔内の血管など目的とする動脈あるいは門脈などの 3D-CT (CT-angiography) を撮像することも可能です (図 2)。今後はこれらの領域で行われている血管造影の多くは 3D-CT (CT-angiography) により取って代わられるものと思われます。また MPR 像や 3D-CT 像を用いれば、手術計画や患者さんへの IC がより分かりやすくなり、これらの領域での活用範囲もますます広がるものと考えられます。以上のように新しい CT 装置が有用であることは間違いありませんが、全く問題が無いわけではありません。撮像範囲、撮像枚数の増加に伴う患者被曝量の増加、撮影フィルム枚数の増加 (医療費の増加)、画像データの増加によるサーバー及び保存メディアの問題、読影すべき画像枚数の増加など多くの問題点がいわれています。これらを解消するためには、CT 装置の進歩のみならず周辺機器の整備も必要不可欠なものです。これらの問題を解決しながら CT による正確な診断を行うことと患者さんにとって精神的、肉体的、経済的負担が軽減することを目標に新しい CT 装置を運用して生きたいと考えています。



胃切除クリニカルパス対象患者の退院後の食生活の調査報告

栄養科 西本 善子
山本 英子

広島記念病院では、胃切除クリニカルパスを平成 11 年 9 月より導入しました。導入当初より術前に 1 回と退院前に 1 回の計 2 回の栄養指導をパスに組み込んでいます。術前の面接では、入院前の食生活調査と術後の食事の流れの説明、術後食の食べ方の注意を、退院前の面接では、退院後の食事の注意の説明を行っています。今回パスを導入して 4 年が経過したので、退院後の食生活に関する経過の調査を平成 15 年 5 月にいたしました。

対象は当院で全摘を除く胃切除術を受け、術後 1 年 2 ヶ月以上経過した者で、102 名から回答を得ました。

食事量の回復のしかたは、術後 3 ヶ月では術前の食事量の 3 割程度を食べている人が 30%、7 割が 20% ありますが、1 年後には 3 割が 20% に減り、5 割が 40%、7 割が 30% へ増加し、調査時では 7 割の人が 40%、術前と同量の人が 40% まで回復しております。

間食の回数は、術後 1 年後で 80% の人が、調査時で 75% の人が、食事以外に間食を摂取しております。

術前、術後の体重の変化では、80% の人が術前に比べて体重が減少しております。その理由を 3 種類に分類いたしました。体重が増えないようにセーブしている人の調査時の BMI は約 23 程度で、術前よりも体重は減っているが、標準の 22 よりも多い状態です。食べているのにもどらない、食べれないのでもどらないとの人たちは、術前の BMI 22 程度から調査時は約 20 程度まで減少しております。体重に対する患者の関心は高く、“今

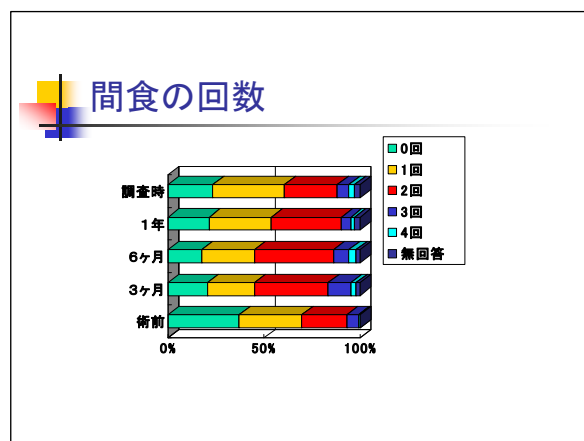
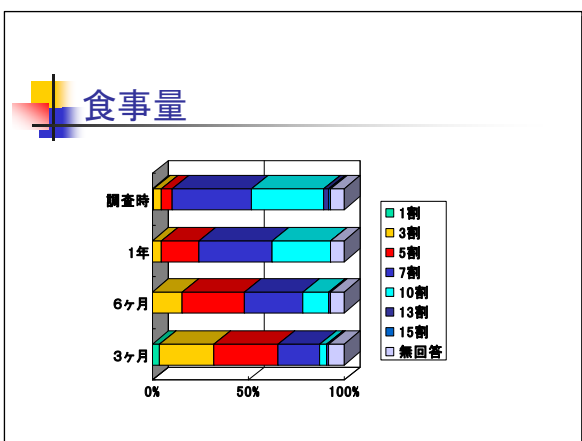
一番気になることは”の質問に対して“再発”の次に多かったものが体重減少でした。

自覚症状については、術前には胃痛、もたれ、胸やけが多く、調査時にはいずれも減少しています。調査時に多いものはおならでした。

退院後の食事については、102人中、75人が注意しているとのことでした。またその内容としては、食べ方については50人が、量については47人が注意していました。その理由として、栄養士の指導で、が49人、医師の指導で、が35人、テレビや雑誌が10人でした。

退院時の栄養士からのアドバイスについては85%の人が覚えていると答えています。またそれを約70%の人は実行していると答えています。

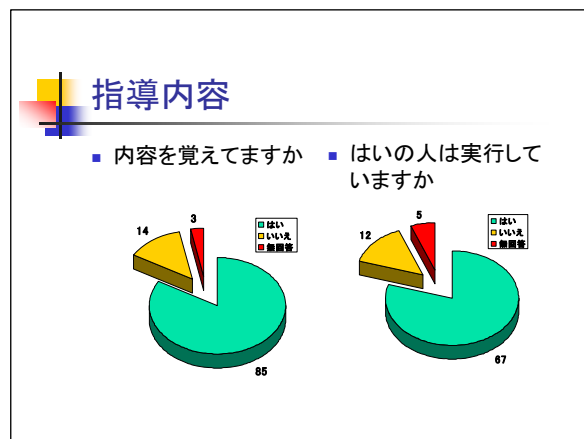
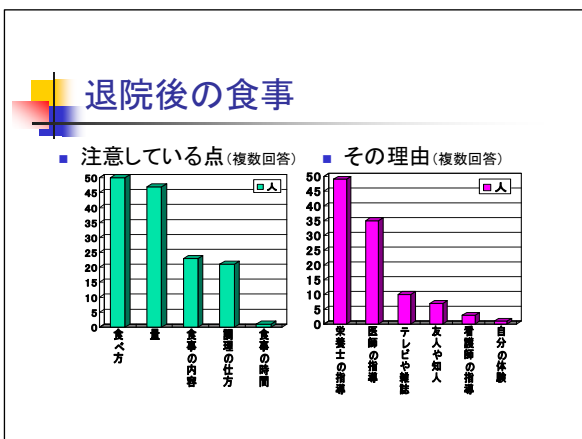
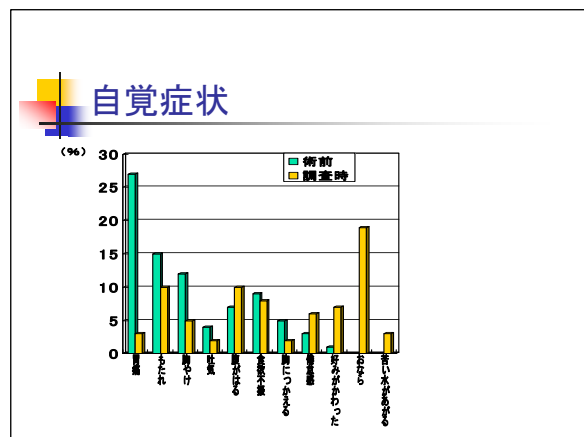
今回、食べていても体重が戻らない人、また食べられなくて体重がもどらない人などの体重の回復が不十分な人などに対して、退院後のフォローの必要性があると思います。ご心配な方は、当院の主治医を通じて、栄養指導の予約をおとりください。



体重の変化(術前・調査時)

・現在の体重が術前よりマイナスの人(88人)

	人	術前BMI	調査時BMI
増えないようにセーブしている	19	24.7	23.2
食べているのにもどらない	32	22.8	20.1
食べられないのでもどらない	17	21.7	18.7
無回答	18		



病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成10年6月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

患者様の権利の尊重

- ◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
- ◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
- ◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
- ◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアを行います。
- ◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

何かお気づきの点や、紹介等で連絡がありましたら何なりと申し付け下さい。連絡先は下記のとおりです。また外来各科および病棟にFAXを設置しておりますので、ご利用ください。

代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

庶務課

TEL 082 (503) 1001

病診連携室（医事課）

TEL 082 (503) 1003

FAX 082 (503) 1010

内科・外科

FAX 082 (503) 0722

産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 0731

4病棟

FAX 082 (503) 1014

5病棟

FAX 082 (503) 1015

6病棟

FAX 082 (503) 1016

7病棟

FAX 082 (503) 1017

8病棟

FAX 082 (503) 1018